

令和7年度 第1回八幡浜市中学校部活動地域展開検討委員会記録

1 開会あいさつ（井上 靖 教育長）

本日は、中学校部活動地域展開の検討委員会ということで集まっていた。令和4年度のことを三つだけ話させていただく。

令和4年8月に「部活動が地域移行する」ということで、中学校の管理職を含めた教職員全員にアンケートを行った。「自信をもって指導に当たることができていますか」とか「あなたは部活動の指導が負担になっていますか」などで、もちろん「負担になっている」という方もいれば、「負担になっていない」という方もおられた。その負担感の理由も聞かせてもらったし、「地域移行になった場合、あなたも指導者として関わりますか」という質問等もさせてもらったのが、市としての取組のスタートだった。

また、その年の1月ぐらいに、部活動地域展開の先進地視察ということで東広島市へ行かせていただいた。人口は八幡浜市と比べものにならないくらい多く、大学も四つあり連携できるということで、参考になることが少なかったのだが、東広島市が「地域移行」という言葉ではなく、「地域展開」という言葉を使っていた。それはすごく参考になって、これを八幡浜市に取り入れようということになった。

その年の年度末に二人の教員が定年退職または管外に異動することになって、その二人とも部活動を熱心に指導していただいた方だったのでじっくり話をしたのだが、二人に共通して言えたことは、「子供たちの中には、もっとやりたい、もっとうまくなりたいと思っている生徒も少なくないが、現状はそのような環境とはいえない。また、学校全体を見たときに、必ずしも専門の方が指導してもらっている状況ではないので、中には物足りなさを感じたり、意欲を失ったりしている子供たちがいるということも事実である。」という話を聞いて、ますます意を強くしたのは、教職員の負担軽減のための地域移行ではなく、今いる八幡浜市の子どもたちにとって、やる気や意欲が沸く地域展開にしたいということを感じたのを記憶している。

本日は、1回目ということで、事務局の説明が中心になろうかと思うが、忌憚のないご意見をいただいて、今後の八幡浜の展開に生かしていきたいと思う。

2 委員自己紹介

3 役員の決定

委員の互選により、以下の2名に決定する。

＜委員 長＞ 井上 靖 教育長

＜副委員長＞ 河野 信 市スポーツ協会会長

4 役員あいさつ

＜井上 靖 委員長＞

昨年度のことを簡単に言うと、どのように地域展開を進めていくかを市長との総合教育会議でも議題として話し合い、スポーツの枠に捉われない文化活動も含めた総合型地域スポーツクラブを設立し、地域との連携を図って体制をつくっていきたいという流れできている。この地域展開の担当課は、昨年度までは学校教育課が主として行っていたが、生涯学習課に移行して、専門の会計年度任用職員を付けて地域展開を更に前進させようということで、今日の検討委員会につながっている。

＜河野 信 副委員長＞

少しでも委員長の手助けになればと思う。がんばって務めさせていただきたい。

5 議事（進行：委員長）

(1) 目的の確認

八幡浜市中学校部活動地域展開検討委員会の目的については、八幡浜市立中学校の生徒にとって、望ましいスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保することを目的に、部活動の地域展開に関し、必要な事項を調査、検討及び協議するために、本検討委員会を設置することとする。

(2) 部活動地域展開に関する国の動向及び八幡浜市部活動地域展開方針（案）等の説明

（事務局より、プレゼンテーションを使って委員に説明を行った。）

(3) 八幡浜市部活動地域展開方針（案）に関する意見交換

【委員】

今ほど細かく説明していただいたので地域展開に対する理解が進んだ。私がお願いしたいのは、八幡浜は大きな企業がなく、子供たちも少なく、合併から1万人以上が減っているが、こういう過疎の町として八幡浜を考えた場合、やはり「人」が財産だと思う。事務局も分かっていると思うが、推進していく中で、いろいろな費用が掛かり、いろいろな問題が出てくると思う。先生方も労働法で守られているから、働き方改革の中でなるべく休日には負担をかけないようにしなければならない。

この事業が展開できるようになった場合、子供たちを指導する人材費等を含めて費用は、最初は全部行政が持たないとできないと思う。そのことをお願いしたい。また、閉校になったところが使えるなどあると思うが、拠点校方式による生徒輸送費なども含めて、それらを行政がすべて網羅していくことが必要になると思う。いろいろなことでお金が掛かってくると思うが、地域展開をして子供たちを育てるのであれば、すべて行政が面倒を見ることが必要だと思うし、こういう意見が委員からあったということをお伝え願いたい。

【事務局】

部活動指導員の受け皿として、今後、総合型地域スポーツクラブの設立を行政主導で考えていくところだが、他の自治体においては、そのクラブ活動に参加するお子さんから会費を徴収している、そういった自治体もある。それに関しては、検討していく必要があるが、八幡浜市はできるだけそういった費用負担を求めない方法でできた

らと考えている。また、総合型地域スポーツクラブ、NPO法人なりの法人格を持った団体とすることを考えているが、そうすると行政からの財政支援であるとか、また会員としてその活動に賛同していただく企業からの寄付金、そういったところが考えられるが、やはりその大半は、行政からの財政支援になると思う。

【委員】

文科省もいろいろな市町事業を事例化しているが、成功事例を参考にしながらやっていただきたいと思う。国内でも成功事例はあるので、どういうところが問題で、どういうふうにやっていったのかを参考にし、検討していってほしい。

【委員】

本校の平均年齢は 48 歳で、20 代・30 代・40 代とバランスよく構成されているという状態ではない。これは、両中学校とも言えるのではないかなと思う。このような状況の中で、教員が部活動に対する負担感を抱いていることは間違いないと思う。特に改革法が国で謳われているが、本市の方では何も進んでいないというところが正直なところである。55 歳を過ぎてくると、自分の健康状態もあるし、親の介護や子の看護など、こういったところにも心配する教員が多いので、この部活動地域展開が進んでいけばいいなと感じている。

拠点校方式が、中学校統廃合の折に進んでいて、中学校もすでに 2 校になったが、両校とも部活動のバランスというのはバラバラだし、部員数を調整することはできないので、この状態は続くと思う。教員人事についても検討していただくとありがたいが、実際のところ部活動人事というのではないと考えているので、なおさら苦しいと感じる。本校も 30～40%の専門性のない先生に顧問としてやってもらっている。またいろいろな理由で指導が困難な部については、少数ではあるが部活動指導員を配置してもらっている。この増員についても強く望んでいる。実際のところは、国・県・市の方で負担している制度だが、市単独の予算配置があれば、学校としてはありがたいところである。また、先日、他の市町の情報も載っていたが、市の職員さんにもそういうことをやっていただける方がおられたらありがたい。ただ、その競技における専門性であったり、人間性であったり、その辺りは市教委の指導の下、選定していただけたらありがたいし、その選定は学校ではなかなか難しいところである。

拠点校になった場合、八幡浜中でやるか保内中でやるかということになると思うが、バスや運転手さんの配備などについても進めていってほしいとありがたい。

また、教員の兼職兼業手当に関してだが、私たち教職員の勤務時間は 8 時から 16 時 30 分となっているが、部活動は、ほぼ昔からボランティアの活動となっている。このような抜本的なものを考えていくのであれば、ボランティアの考えは捨てていただいて、教員に平日の兼職兼業手当なども付けていくと、手を挙げてくれる教員は、更に責任をもって指導に当たってくれるのではないかなと思う。

本市は、当面の間は、平日と休日の一本化を考えられているようだが、これが続くと何ら今と変化はない。拠点校方式で行うことは理解できるが、一つ一つを解決し、次の段階に進んでいただけたらと思う。

総合型地域スポーツクラブも考えているようだが、くれぐれも教員の負担は一切掛けないようにお願いしたい。いろいろな人の支援を受けながら部活動をなんとかやっ

ていきたいという中で、総合型地域スポーツクラブに教員が関わってくるということになる、何をやっているか分からなくなるので、そこは考慮してもらいたいと思う。中学校、高校とそれぞれ決めた部活動があるので、なかなかこの総合型地域スポーツクラブに参加することは難しいかもしれないし、無理に子どもたちを集めることなどについてはご配慮いただきたい。

【事務局】

先日も両校長先生と話をする中で、すべてを実施していくことは難しいと考えている。その中の一つ、バスの問題に関しては課内で話し合いを進めているが、拠点校方式を取る上で、無駄のない的確な生徒輸送ができるよう、活動場所等をしっかり考えながら、早目に長期計画を立てていきたいと考えている。拠点校方式が進んできた場合、現在ある2台の中学校スクールバスの活用だけでは困難だと思うので、新規バスの購入など考えていかなければならないと思っている。

また、財政面の成功例などについて、本日、県教委より来ていただいているので、いい事例があれば紹介いただきたい。

【県教育委員会】

国の補助として、実証事業というものがある。これは、指導者の謝金であるとか、様々な形で利用できるものである。来年度については、同じようなスキームで行われるかどうかは分からないが、国からの支援というものが何らかの形で市町に対してあるのではないかと思う。それを有効活用していただきながら、事業を進めていただきたい。

バスについては、国の方の事業で、新規のバスを購入するにあたって補助を付けるというものがあつたが、こちらについても来年度あるかどうかを明確に述べることはできない。あるようであったら、そういうものも上手く活用していただきたい。

【委員】

現在も、両中学校の少数の部で拠点校方式を活用しているが、今は、活動場所への移動手段として自転車を使っている。今はそれで対応できているが、これからこの拠点校方式が進んでいく中で、同じようにはいけないと思う。移動手段がかなり重要になると思うので、そのための予算取りを考えていってもらいたい。財政のことはよく分からないが、ふるさと納税もあると思うので、ぜひ地域展開のために考えていただけたらと思う。

【事務局】

財源のことについて言うと、法人格を持ったスポーツクラブを設立するというねらいは、そういった財政支援を受けることができるということにある。toto というくじがあるが、toto では法人格を持ったスポーツクラブに対して、バスの購入であるとかスポーツ施設の整備、用具の購入費などに対する助成制度がある。地域指導者の受け皿となる団体を任意団体とせず、きちんとした法人格、特定非営利団体とする目的は、そういうところにある。

また、今回、部活動の地域展開をするに当たっては、交通手段の確保ということは大い問題だが、指導者の確保がそれ以上に難しくなってくると考えている。そういうことから、委員の皆様には、こういった指導者がいるのだけれどもなどの情報があ

れば、ぜひお寄せいただきたい。

【委員長】

拠点校方式のことを言わせてもらおうと、八幡浜中学校ができるまでの八代・愛宕・松柏では、八代中学校が部活動の数は最も多く、その数は守ろうということで、愛宕・松柏中にない部活動は、八代中学校へ行ってできるようにした。現在2校になって、保内中学校に男子バスケットボール部と剣道部がないので、希望したら八幡浜中学校の男子バスケット部と剣道部に参加できるという形で行っている。拠点校方式を活用している男子バスケット部は現在のところはいないが、剣道部員として保内中から八幡浜中に参加している生徒が1名いる。

【委員】

拠点校方式が始まるということは、活動場所まで自転車で行く生徒がいるということで、（登下校以外にも）自転車を使う生徒がいるということが分かった。以前は、部活動のための自転車利用の数まで頭になかったので、八幡浜中学校の駐輪場設置の要望のときも分かっていなかったところがあった。この件のように、委員はなかなか細かいところまで見えないところがあるので、事務局はできるだけ情報を詳しく提供し、私たち委員もすぐに対応できるようにしてもらいたい。

【委員】

拠点校方式で二つが更に一つになるのは分かるが、先が見えない部分がいくつかある。水泳や陸上が今年から南予で予選会をしたように、他の種目も開催をすることを中体連は考えているのか、それとも予選会なしで県総体というような形を考えているのか教えてもらいたい。また、クラブチームの参加も種目によって違っていて、何がだめで何が大丈夫なのか分かりにくいところがある。

クラブで頑張っている子どもたちは、どこでその成果を出すのかというと、バスケットボールだったらウィンターカップという予選があって、それを目指してがんばっている。クラブチームが目指しているところと中体連が目指しているところがどうなのかよく分からない。クラブチームは、中体連の大会に入ってくるようになるのか。今、テニスとか水泳、陸上、ソフトなどが中体連大会にクラブチームとして入ってきているけれど、他の種目はこれからいったいどうなっていくのかが見えにくい。

【中体連理事長】

種目によってクラブチームの規定が違っており、中体連に登録しているクラブチームであれば出場することができる。例えば、サッカーであれば、クラブユース連盟と中体連があり、そのどちらかに登録できる。生徒が両方に出場することはできない。また、バスケットボールクラブチームの中体連登録の規定が一番厳しくなっている。

【委員長】

高校総体については、南予大会がなくなるが、中学校はどうなるのか。

【中体連理事長】

中学校は、それと同様なことが起こるのが、確実にチーム数が減っている南予だと思われる。しかし、今のところはその話はなく、具体的にこの種目が対象という話も出ていない。しかし、近い将来に南予大会、あるいは南予北部大会などの形式になる可能性もある。

【委員】

部活動中の安全確保については、先生方にやっていただいているところだと思うが、拠点校方式になった時の自転車の事故も考えられるので、その辺りはきちんと対応いただいて、できるだけ早くバス移動を準備していただくことをお願いしたい。

【委員】

剣道については、松蔭小学校の体育館をお借りして、現在野村会長が必死になって行っている。できるだけ先生方に負担を掛けないように、川上剣道会の中で、指導者を決めて中学生を指導していただいている。ただ、それぞれが仕事を持っていて、川上が主になってやっているの、11・12月になると指導には一切出られない状態である。いろいろ川上剣道会の中で工夫しながら、やっていきたいと考えている。スポーツ協会としても、他の団体をお願いをして、できるだけ先生方に負担を掛けないように、いろいろな種目に対して話しかけていきたいと思っている。

【委員】

部活動指導員が5名配置されていると聞いたが、年齢は何歳くらいの方か。

【事務局】

正確なことは言えないが、69歳ぐらいが2名、他は63歳、57歳、50歳代ぐらいだと思う。

【委員】

定年退職された方がメインになってこれから指導されていくと思うが、その後継者をつくっていく体制もつくらなければならないのが、なかなか厳しいところだと感じる。

【委員】

地域展開において指導者の確保は大変難しい問題だと感じる。また、資格を持っている人が少なく、まずは資格を持つことが大切だと思う。バレーボールの競技は、バレーボール協会、中体連登録両方を登録すれば、県総体に出ることができる。私も週1回の活動を行っているが、聞いたところによると、宇和島市や西予市などのクラブチームへの勧誘が始まっている。現在のところ、八幡浜・保内中学校のバレーボールの生徒は参加していないが、今後クラブチーム同士の選手の取り合いが始まるのではないかと心配している。

【委員】

昨年、地域クラブ活動選手登録をして、八幡浜市スポーツセンターとして活動している。今年は八幡浜市内の生徒が7名と三間中の女子が1名、計8名で選手登録をしている。クラブの大会と中学校の大会と両方に出ることができるので、その辺りは問題がない。松山等での大会で宿泊がない場合は問題ないが、宿泊等に関しては、すべて保護者負担になっている。総体については、市からの補助が少し出ている。八幡浜市スポーツセンタークラブ登録している保護者の負担に関しては、中体連と同じように、市からの補助があればいいと感じている。

【委員長】

今のことについては、両校長と話をして、クラブチームでも八幡浜の生徒だったら補助を出していこうという話はしている。水泳と陸上は、今回初めて南予大会で予選

をして県大会出場という形になった。その結果、県大会出場選手の一覧を見ると、八幡浜スイミングクラブや陸上においても、地元のクラブでやっている生徒がかなり上位に入賞していて、県大会でも活躍できそうに思う。水泳は男女ともリレーを取っていて、今後の活躍が期待できる。

【委員】

部活動地域展開は、私もとてもいいと思う。先ほど指導者の件でいろいろ話が出たが、やはり指導者確保が一番重要だと思う。私は、小学校から高校3年までサッカーをしていたが、その年代つまり40代ぐらいの人たちが、指導者として自分たちのチームを作っているところがある。生徒のことを考えると、強いチームでやりたいというのは、中学生なら必ずあると思う。ただし、知識とか技術がある指導者を呼ぶには、かなり財源が必要になると思うので、そのあたりは市で考えていってもらいたい。また、両校長先生の話聞いていて、先生方の負担はかなりあると思うので、早急にこの部活動地域展開を進めた方がいいと思うし、どのくらいを目途に完了しようとしているのか知りたいと思う。

【事務局】

実際、いつを目途に、いつぐらいをゴールにするのかという推進計画（ロードマップ）を現在作成中であるが、その作成に当たっては、両校長と慎重に審議しながら考えていきたい。また、それを第2回か第3回あたりの検討委員会で、第一段階としてお示しできたらと考えている。いくつもの課題があり、そう簡単には推進できない部分もあろうかと思うが、前向きに検討を進めていきたいと思う。

【委員】

指導者の資格について、バスケットボール協会はウィンターカップ予選に出場するためには、E級資格をオンラインで取得した後、D級資格を持っていないと参加できないということで、7月に実技講習を二日掛けて取りに行く。資格を取ることはなかなか大変であるが、スポーツ協会から費用面の支援をしてもらい助かった。スポーツ協会からの補助制度などについても周知をするとよい。

【事務局】

市スポーツ協会では、従来から指導者の資格取得に対して助成を行ってきた。掛かる費用の実費に対して、昨年度までは1万円を上限に助成したが、今年度から総会の承認を得て、実費の5万円までを助成することとなったので、ぜひ活用していただきたい。

【事務局】

総合型地域スポーツクラブを指導者の受け皿にするというところだが、このクラブの特徴としては、多種目、多世代、多志向の取組だということにある。今回、文部科学省が出している方策は、中学校の休日の部活動指導の地域展開に関してではあるが、八幡浜市としては中学校の部活動だけでなく、それよりも下の世代であるスポーツ少年団も考えている。少年団も以前に比べて半数ほどになっており、指導者がいなくなったり、子供がいなくなったりして、存続が危ぶまれるチームも出てきている。そういった子供たちの受け皿としても、今回立ち上げようとしている総合型地域スポーツクラブを生かしたいと考えている。

例えば、指導者がいれば、総合型地域スポーツクラブの中に、ミュージカル、マウンテンバイク、弓道、スケートボードなどの活動もできるのではないかと考えている。そのように、子供たちができるメニューを提供できるものでありたいし、また、中学校の部活動地域展開にも生かしていけるようなクラブを目指したいと思う。

【委員長】

スポーツの話題では、野本周成選手が世界陸上を決めた。先日来られて、表彰台をねらって12秒台を出すと言われていたが、これからも八幡浜市の子供たちの励みになってくれたらと願っている。

6 諸連絡

第2回検討委員会 令和7年10月中旬頃 開催予定

第3回検討委員会 令和8年1月中旬頃 開催予定

7 閉会あいさつ（河野 信 副委員長）

少子高齢化において、子供たちの活動を考えることは大切だと思う。今後も皆様のご意見をいただきながら考えていきたいと思う。